

粟島に生息するオオミズナギドリの研究

○ 山川 あゆみ、川上 友佳、岡崎 郁美、山本 麻希（新潟県立長岡高等学校）、
馬場 芳之（九州大学比較社会文化研究院）

オオミズナギドリ (*Calonectris leucomelas*) は、日本、朝鮮半島、山東半島、台湾などで繁殖し、東南アジアからオーストラリア大陸にかけての海域に移動して越冬する海鳥である。日本近海の繁殖地では、冠島、伊豆諸島御蔵島などが有名で、新潟県岩船郡粟島浦村にも中規模繁殖地がある。海鳥は、海洋生態系の高次捕食者であるため、海洋生態系のモニター種として近年注目を浴びている。オオミズナギドリは繁殖開始年齢が遅く、一腹卵数も一であるため、生息数が減少すると回復が困難である。現在オオミズナギドリの絶滅は危惧されていないが、今後も適正な繁殖状況を維持していくため、繁殖地の基礎的な生態的な調査が不可欠である。

粟島の海鳥繁殖地は天然記念物に指定されているが、近年その繁殖調査は行われていない。そこで、われわれは、粟島に生息するオオミズナギドリの保全を目的として、基礎的な生態調査を行うことにした。

調査は2003年11月23日から2005年5月5日まで、合計7回、新潟県岩船郡粟島浦村字立島及び字上丸山地区の海鳥繁殖地にて行われた。繁殖分布調査として、繁殖地の斜面で営巣分布を調べ、代表的な植生の営巣地に5つの方形区（2×10m）を取り、その中にある営巣密度を計測した。繁殖地にて33羽の成長を捕獲し、体サイズ（Bill depth, Wing length, Tarsus length）と体重を計測した。同時に捕獲した成鳥の翼下静脈から血液を採集し、性染色体の遺伝子を増幅することで性を決定した。2004年7月から9月にかけて、5羽の雛の体サイズ（Bill depth, Wing length, Tarsus length）と体重を合計3回計測した。これらのデータから求めた粟島におけるオオミズナギドリの営巣分布、繁殖数、外部計測値と性の関係、雛の成長速度について報告する。